

有限会社 H.I.プランニング 243-0025 厚木市上落合 6 9 7 - 2 TEL/Fax046-230-0890

代表 岩崎 仁志

E-mail : [h-iwasaki@tbz.t-com.ne.jp](mailto:h-iwasaki@tbz.t-com.ne.jp)

## H. I. インフォメーション 2018年10月号

消費税の増税まであと1年、さらにその翌年にはオリンピックをひかえ、国内情勢も少しづつうねりを強め始めています。全国民共通の課題には当然、国民全体で取り組まねばなりません。特に企業においては収益を確保しつつ、他との競争・協調も念頭に置かねばならず、リスクの大小やそれに対する妥協点も考慮しながら手を打っていくことが必要です。周囲を観察しながら早目の対応を心がけておきたいものです。

さて、2019年を目前にした物流業界一、こちらではやはり深刻な人手不足への対応が優先課題でしょう。この問題に取り組み、業務の効率化を実現していくために企業の共同化が日々進み続けています。先頃異業種3社の連携として話題になったキュービー、ライオン、JPRの取組みは、構想通りトレーラー+パレットの完全ラウンド輸送実現に至り、大きな効果を上げました。関東（茨城）～九州（佐賀）～四国（徳島）～東京港、そして北関東（埼玉）を経て再び茨城に戻るこの取組みは、間にフェリー輸送を導入するため、ドライバーの運転時間は約8割減り、実車率も99%を越えました。実効性のある高度な計画作業に基づき事前の緻密な検証が繰り返されたことは想像できますが、何より3社のトップや当事者が共に緊張感を持って、大きな課題に取り組んだ結果でありましょう。

異種の共同化そのものは10年程前からありましたが、当時の目的は多くが京都議定書を意識した環境対策によるものでした。CO2削減を掲げたグリーン経営が一つの企業付加価値にもなり、結果、効率化にもつながるとされた企業連携ですが、現代ではドライバー不足という厳しい課題への対応として、様々な業界から熱い注目を浴びるようになったのです。ただ、先の取組みではCO2の排出も62%削減しており、始まりの目的は異なっても結果的に人手不足と環境対策は同時に取り組むことが可能であることもわかります。輸送効率化と同様、経営そのものも効率的に行なえる自社ならではの共同化を見極め、検証を深めていく価値はありそうです。

### 物流業の時間管理を見直そう

国内の物流業はその殆どを占める中小企業により支えられています。しかしひとつひとつの企業にとっては目の前に山積する課題に挑み続けることで生命を維持していくのが精一杯、日本経済の活性化に貢献しているなど、意識するゆとりはないかもしれません。変化してゆく時代を背景に現在メーカーや流通業者等荷主の効率化に対する動きが顕著化、物流子会社等が構築する共同ネットワークも広い意味での効率化に対応したものです。これからの企業成長はコスト削減と効率化にかかっていることは明確で、特に燃料高騰や人材不足に苦しむ運送業においては周囲との協調による効率化を意識した経営戦略を模索する動きが日々続いているのです。

物流業における利益の源泉は何と言っても現場です。この現場で効率化を成功させるキーマンは何と言っても指導者でしょう。人のマネジメントと同時に現場の時間管理をマネジメントする力が現場指導者には必要です。例えば物流現場において時間が浪費されながら使われていたとすれば、その時の生産性はほぼゼロ。言うまでもなく時間はお金で買えないし、浪費し消えた時間は永遠に取り戻すこともできません。時間の無駄遣いはスタッフ自身にとっても会社にとっても大きな損失であることをあらかじめ現場全体で認識しておくことが重要です。時の大切さをよく知る人は無駄な時間を持たないようにするため自然と効果も上がります。物流業において生産性を高め利益をあげるために必要な手段のひとつが現場の時間管理であることを再確認いたしましょう。

現場の作業は段取りと習慣化により短時間でこなすことが十分可能です。ただそこには5S（2S）による事前の改善作業が行き届いていることも条件です。雑然とした仕事場で作業効率や動線は無視した作業が続く中、適正な時間管理は出来ないはず。上司から言われなくても見られていなくとも、働きやすい環境を作ろうとする理想のスタッフはやはり事前の教育なくして得られるものではないですね。一人の時間を有効に、最大限に活用できれば、会社の利益も確実に上がることを、まず部下共々理解しておく必要があります。

時間管理の具体的な実践方法は部署や業務により異なりますが、共通して言えるのは各自が現状の時間の使い方をまず書き出してみ、その結果を検証してみることです。そうするとなくとも問題ない仕事や時間が少しずつ浮かび上がってくると思われます。ここに至ればその後グループ別や管理者を交えたミーティングを設け、生産性を上げることを明確な目的とした改善策を皆で決めてひとつずつ実践して参りましょう。繰り返しますが時間はお金と同じ、それ以上に貴重なものです。社員各々が今の時間を2倍3倍有効に活用し、収益の改善に役立てていく、この地道な積み重ねが生む成果を社員と共に実感していきたいものですね。

#### 国交省、スワップボディコンテナ普及へ

国土交通省は10月9日、スワップボディコンテナ車両の全国的な普及に向け、標準的な仕様や運用方法などについての検討会を設置し、11日に初会合を開催すると発表。スワップボディコンテナは車体と荷台を分離することができ、分離中に荷役作業を行うことが可能なもので、これにより荷待ち時間や労働時間の削減を図ることも可能になります。

会合では、スワップボディコンテナ車両活用促進に向けた検討会や各社の取り組みについて議論することとしています。この取り組みでは2017年に、ニトリの子会社であるホームロジスティクスが富士運輸と共同でスワップボディを活用し効率化を図ることに成功、物流合理化大賞を受賞した経緯もあります。同社が導入したスワップボディコンテナは、荷台が着脱可能な車両で、これを導入することにより、業務改善を図る取り組みでした。積み降ろしは倉庫従業員が実施し、ドライバーは運転に従事する「荷役分離」を実現させ、ドライバーと車両の安定確保も可能になったものです。また、積み降ろし時間や待機時間が減少したことで車両回転率が向上し、輸送コストを削減。性別・年齢を問わず「誰でもドライバーになれる」ことをアピールできた、としています。

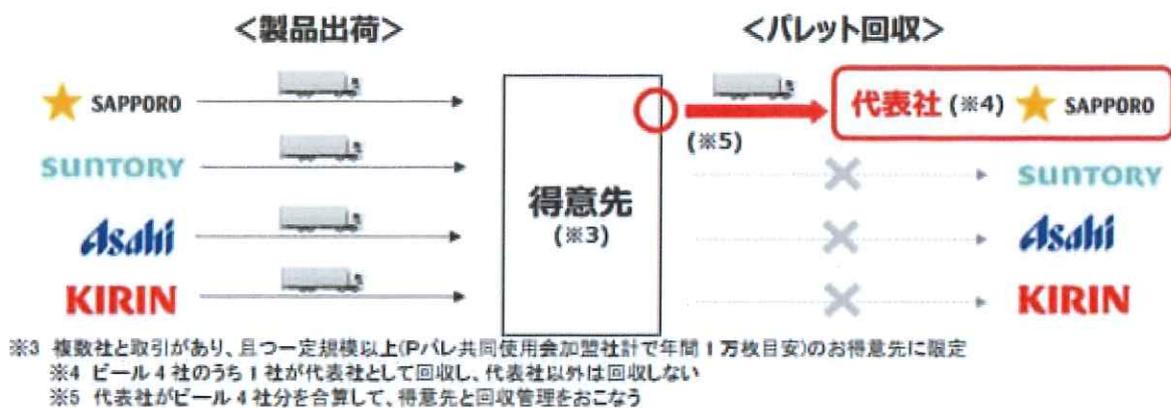
本年6月15日に閣議決定された「未来投資戦略2018」では、「荷役作業を効率化するスワップボディコンテナ車両について、全国的な普及を促進するため、関係者間で技術面・運用面での調整を行う官民の利活用検討協議会を速やかに立ち上げて検討を行い、本年度中にガイドラインを策定する」としており、今会合はこの施策に基づき、開催されたものです。

#### ビール4社も東北6県でパレット共同回収開始

サッポロビール、サントリービール、アサヒビール、麒麟ビールのビール4社は10月9日、ドライバー不足などを背景に、パレット回収の物流合理化による環境負荷低減とメーカー・得意先双方の業務負担軽減を目的として、11月から東北6県でビールパレット（Pパレ）の共同回収の先行展開を開始すると発表しました。

Pパレは、業界統一規格として1992年から酒類飲料業界で共同利用しているもので、2013年にPパレ共同使用会の一般社団法人化を契機として、伝票の統一、共通受払システムの導入といったPパレ管理業務の標準化が進んでいますが、これまでは得意先からの回収について各社が個別に実施していました。今回

先行展開する共同回収では、年間でPパレ共同使用会加盟社合計の回収枚数が1万枚以上の得意先を対象に、4社から回収代表社を選定し、得意先ごとに「回収代表社」が4社分のPパレを回収する仕組みです。



▲Pパレ共同回収のスキーム（出所：サッポロビール、サントリービール、アサヒビール、キリンビール）

この取り組みにより、回収車両の積載効率の向上、回収距離の短縮や回収運用に関わるトラック台数の削減によるCO2削減が促進され、4社合計で年間のCO2排出量が735トン（従来比56%）削減できると試算しています。また、得意先にとっても、P増パレ返却先が4社から1社に集約されることから業務負担の軽減につながる効果もあります。

今回の先行展開の効果検証に基づき、4社による実施エリアの拡大、Pパレ共同使用会全体への展開の拡大を目指すことにしています。

NTT ロジスコ、ノボキユアの医療機器 3PL 業務開始

NTT ロジスコは9月27日、医療機器開発を手がけるノボキユアの日本法人「ノボキユア」（東京都千代田区）から医療機器 3PL 業務を受託し、大田区の「メディカルロジスティクスセンター」で5月から業務を開始したと発表しました。

これにより NTT ロジスコは、センター内で製品の入荷検品、装置検査、責任技術者による出荷判定を行い、日本全国の病院へ配送を行うことになりました。治療完了後、返品された製品のクリーニング及び装置検査を行い、検査で良品として認められた製品を再度出荷作業することになります。

また、製品と接続して使用する消耗品は温湿度管理品であるため、同業務を開始するにあたり新たにセンター内に設置した温湿度管理装置内に保管し、定期的に患者の自宅に直接配送を行っていく、としています。

NTT ロジスコは、日本市場で新たに物流業務を開始するノボキユアから、医療機器製造業登録拠点での取扱実績、品質マネジメントシステム「ISO 13485」に基づいた確実な物流センターのオペレーション、医薬品医療機器等法に準拠した運営やセキュリティなどが評価され、3PL 業務を受託した、としています。3PLの奥深さ、そして近年の広がりを見直しを再認識するものです。

ヤマト、ヤフーアプリで宅配便配達事前通知

ヤマト運輸とヤフーは10月9日、クロネコメンバーズの「クロネコID」と「Yahoo! JAPAN ID」を連携し、「Yahoo! JAPAN」アプリなどから宅急便の配達予定日時を通知する機能の提供を、同日から開始したと発表しました。

同機能では、宅急便の配達予定日時、配達完了、不在連絡などの情報が、Yahoo! JAPANアプリのプッシュ通知機能を利用して受け取れるようになるほか、同アプリ内の配送メニューやスマートフォン向けウェブページから、送り状番号、品名といった荷物の詳細も確認でき、「Yahoo!カレンダー」アプリに配達予定日時を自動で登録して予定の通知を受け取ることも可能となっています。

また、「Yahoo! JAPAN」アプリなどでの事前の通知からクロネコメンバーズサイトで配達日時や受け取る場所を変更することで、利用者が「好きな時に・好きな場所で」荷物を受け取れるようになるとともに、ヤマト運輸にとっては、配達効率の向上も期待できます。

利用にあたっては、クロネコ ID と Yahoo! JAPAN ID の取得と、初回のみ ID 連携が必要となり、配達日時や受け取る場所の変更は今後、Yahoo! JAPAN アプリ上で手続きをできるようにしています。

#### 公取委、送料談合の関西百貨店 5 社に排除措置・課徴金納付命令

公正取引委員会は 10 月 3 日、中元・歳暮の配送料の値上げでカルテル行為を行っていたとして、関西の百貨店 5 社に排除措置命令と 1 億 9397 万円の課徴金納付命令を発しました。独占禁止法に違反してカルテル行為に関与していたのは阪急阪神百貨店、高島屋、近鉄百貨店、京阪百貨店、そごう・西武、大丸松坂屋百貨店の 6 社と高島屋の物流子会社。違反行為を自主申告した大丸松坂屋百貨店を除く百貨店 5 社に対し、カルテル行為が消滅したことを確認するとともに、今後は各社が自主的に送料を決めること、送料の金額に関する情報交換を行わないこと、などを内容とする排除措置命令及び総額 1.9 億円の課徴金を、2019 年 5 月 7 日までに支払うよう求める納付命令を出しました。

これらの百貨店と高島屋サービスは、15 年 7 月頃から同年 9 月上旬にかけて物流担当者が参加する「大阪百貨店物流連絡会」の場などで、中元・歳暮の送料を引き上げることについて情報交換を行い、そごう・西武を除き、15 年 9 月上旬までに送料を 300 円程度に引き上げることで合意、そごう・西武は 15 年 9 月上旬以降も物流連絡会の場などで阪急阪神百貨店、近鉄百貨店、京阪百貨店、大丸松坂屋百貨店、高島屋サービスと送料アップに関する情報交換を続け、「遅くとも 2016 年 2 月上旬まで」合意に参加していました。

#### **お知らせ**

- ・ 国際物流総合研究所では幹部向けの物流経営塾第13期を開講中です。次回第5回は11月8日（木）。オーデック㈱の小野寺勝久代表が“荷主企業分析と提案作成手法”のテーマで講演されます。弊社岩崎も“良い提案と失敗事例の研究”のテーマで講演いたします。1回ごとの参加も可能です。小人数による物流業2世経営者、物流業幹部の為の実践的なスタディと現場見学など充実した内容で、実績ある講師陣も多く揃っております。物流子会社や大手・中堅物流企業幹部の方等もこれまで多く参加され好評です。詳細は国際物流総合研究所Tel103-3667-1571まで。  
<http://www.e-buturyu.jp/magazine/contents/keiei13.pdf>。
- ・ 国際物流総合研究所では11月21日（水）～22日（木）まで北海道物流視察見学会を開催いたします。㈱エースの新設倉庫、丸全昭和運輸の札幌倉庫、富良野通運㈱の札幌工場、日本アクセス北海道石狩低温センター、栗林商船フェリー等の見学を予定しています。参加費用は1人法人会員1.5万円（税別）一般3.5万円です。（現地集合現地解散となり往復旅費、宿泊費は含みません）詳細は国際物流総合研究所Tel103-3667-1571まで。
- ・ H I プランニングでは多様なコンサルティングサービスを展開させていただいております。物流企業向けには、幹部・社員育成や営業支援など。メーカーや流通業には物流改善など。いずれも初期診断サービス後最適なカリキュラムで行います。是非一度ご相談ください。
- ・ H I プランニングでは、各種課題に最適なソリューションを提供させていただきます。環境改善にも役立つ話題の車載機器各種（矢崎エナジーシステム社製など）をはじめ、高性能と多くの実績で各界からの評判も高い製品を御紹介いたします。是非、ご相談ください。